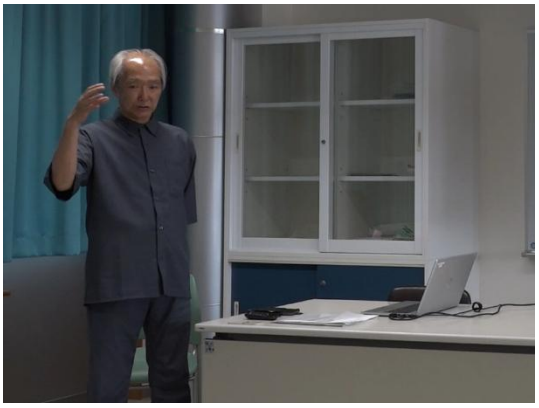
開催地名	岡山県 倉敷市
開催日時	令和6年7月23日(火)9:00～10:30
開催場所	倉敷西小学校
語り部	松井　憲(広島県広島市安佐南区)
参加者	倉敷市民30名
開催経緯	本市は、2018年7月西日本豪雨災害により甚大な被害を受けた。この経験により、災害に備える意識や行動の高まりが期待できるが、実際のところ、防災意識は低い。今後、起こるであろう南海トラフ地震のことも考えると、防災意識の向上は緊急課題であると考え、被災地からの実体験を交えた講話について、被災地での活動等実体験の話を直接聞く機会を設けたいと考えた。
内容	■ はじめに 講演者の松井憲氏は、2014年8月に広島市で発生した豪雨災害で被災し、その経験をもとに防災士資格を取得した。現在は、防災リーダーとして地域での防災啓発活動に積極的に取り組み、消防庁の防災意識向上プロジェクトの語り部としても活動を行っている。今回の講演では、豪雨災害の発生メカニズム、避難の重要性、そして災害後の復興活動について、自身の体験を交えながら詳しく語られた。 松井氏は「自分の命は自分で守る」という意識が防災の基本であり、日頃からの備えや地域との連携が災害時の生存率を大きく左右すると強調した。また、災害に対する知識を持つだけでなく、いざというときに行動に移せるかどうかが重要であり、そのために防災訓練や地域との協力体制の構築が欠かせないと訴えた。 ■ あの日のこと 2014年8月20日未明、広島市安佐南区と安佐北区を襲った集中豪雨により、大規模な土砂災害が発生した。この災害は、長時間にわたる線状降水帯の影響で発生し、わずか数時間の間に広範囲で甚大な被害をもたらした。 0時30分ごろから1時間あたり100mmを超える猛烈な雨が降り続き、2時間半の間に累積降水量が250mmに達した。この雨量は通常の台風の総降水量を上回るものであり、地盤が急速に緩み、多くの斜面が崩壊した。広島市では避難勧告の発令が遅れたため、多くの住民が逃げ遅れ、被害が拡大した。 松井氏の自宅周辺でも、大規模な土砂崩れが発生し、多くの住宅が押し流された。夜間で周囲の状況が把握しづらく、明るくなるまで被害の実態を知ることができなかった。道路が寸断され、救助隊が到着するまで孤立状態が続いたことで、極度の不安を感じながら一夜を過ごしたという。災害が発生した際、情報が十分に得られない状況では、自らの判断で迅速に行動することが生死を分けると述べた。 ■ その後のこと 災害後、地域復興に向けた取り組みが進められたが、そこには多くの課題があった。 復興に向けた地域の取り組みとして、被災住民が主体となり「復興交流館モンドラゴン」が設立された。この施設では、被災者同士の交流を促し、互いに助け合いながら生活再建を進めることを目的としている。特に、高齢者の孤立や認知症の進行が問題となり、地域住民が協力して支援活動を行った。 また、災害後の防災対策として、広島市では土砂災害警戒区域の見直しが実施された。新たに30カ所の砂防堰堤が建設され、今後の災害リスクを減らすための取り組みが進められた。さらに、住民が防災マップの作成や避難訓練の強化が行われ、住民の防災意識が向上していった。 ■ まとめ 松井氏は、これまでの経験を踏まえ、今後の防災対策として以下の点を強調した。まず、避難の判断を早めに行うことが何よりも重要である。避難警報が出る前に自主的に避難を開始することが理想であり、特に夜間の災害では、周囲の状況が見えにくいため、早めの行動が生死を分けることになる。 また、地域の助け合いを強化することも必要である。近隣住民とのつながりを深め、いざというときに助け合える体制を整えることが大切であり、特に高齢者や障がい者の避難支援を地域

	ぐるみで考える必要がある。 防災教育の充実も不可欠であり、実際の災害を想定した行動を学ぶことが求められる。親子で通学路の安全確認を行い、災害時の避難経路を確保することが、将来的な災害リスクを軽減することにつながる。 避難所の環境整備についても、最低限の生活必需品を備え、長期避難に対応できる体制を整えることが重要である。女性や高齢者に配慮した環境づくりが必要であり、特にプライバシーの確保やトイレの改善が求められる。 さらに、防災インフラの強化も不可欠であり、砂防堰堤や排水設備の整備を進めることで、再び同じ災害が起こらないようにする必要がある。防災マップを活用し、地域住民が危険地域を正しく把握することも重要である。 最後に、松井氏は、地域全体で防災意識を高めることの必要性を改めて強調した。防災対策は個人の努力だけでなく、地域全体で取り組むことでより効果を発揮するものであり、防災に関する知識を共有し、実際の行動につなげることが大切であると締めくくった。 
開催地より	実災害を体験している語り部の体験談を聞くことで、事前に備えることの重要性を学んだ。広島と倉敷を比較しながら考えることで、自分たちの地域であればと自分事として捉えることができた。地域の方々と熱い協議ができ防災意識を高めることができた。